

# 規律意識や自覚高めめる

## 県教委 ベテラン教員が研修

ベテラン教員を対象にした県教委の新たな研修講座が20日、笠間市平町の県教育研修センターで開かれ、中学校教諭ら約140人が、不祥事根絶に向けたコンプライアンス(法令順守)確保や学校運営力などについて理解を深めるとともに、自覚を高めた。

研修講座は、教職員の資質向上を目的とした世代ごとの新たな目標設定に伴い、研修内容を見直し本年度スタートした。今年4月1日現在で45歳となる小中

高校、特別支援学校などの教員約500人が対象で、若手や中堅教員に指導、助言のできる資質を身に付けてもらうのが狙い。講座は2日間の日程で行

われ、近年、教職員の不祥事が相次いでいることから、コンプライアンス意識の高揚を狙いに、弁護士や税理士、大学教授らが専門的な立場で講義、演習を実施。

一教諭(46)は「コンプライアンスや学校運営など視野を広げる意味でも有効な研修だった。ベテランとしての自覚と意識を高め、指導法や教育理念を若手教員に伝える使命を再認識した」と述べた。

研修の成果は今後、各校ごとの校内研修に役立てられる。同センターは「ベテラン教員として学校の中核的役割を担ってほしい。コンプライアンス意識を校内に広め、共有し、不祥事抑制につながることを期待したい」としている。

(朝倉洋)



本年度からスタートしたベテラン教員を対象にした県教委の研修講座＝笠間市平町

この日は、不祥事根絶へ、県内教職員の懲戒処分事例を例に、当事者意識を持つことの重要性について理解を深めた。さらに、税理士の谷田部博貴氏が「教職員の生活設計」のテーマで講義し、将来にわたる金銭面の管理などをアドバイスし、一人一人が今後の人生設計を考えた。懲戒処分を受けた場合の収入面の影響に関する解説もあり、教員らは熱心に耳を傾けていた。

日立市立十王中の宮本賢